

あなたのスキルは社会に役立つ

エンジニアだからできる社会貢献

東日本大震災の発生直後に発足したHack For Japanや「市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援」を掲げるCode for Japanのメンバーを始めとして、日本各地で技術を活用した社会貢献活動が行われています。本連載では、防災や減災、地域の活性化や課題解決、そして人材育成など、「エンジニアだからできる社会貢献」の取り組みをお届けします。

第152回

台湾のシビックテックの祭典「g0v サミット2024」参加レポート

● Code for Japan 明主 那生(みょうしゅ なお)

Code for Japan の明主です。Code for Japan のようなシビックテック活動は、日本国内に限らずアジアの各地、世界各国で行われています。筆者は東アジアの各地のシビックテッカーとの交流から、「どうすればシビックテックの活動が国内のコミュニティにとどまらず、海外へも広がるのか」「どういった連携をしていけるのか」について関心を持っています。

今回は、筆者が参加した台湾最大規模のシビックテックのコミュニティイベント「g0v (ガブゼロ) サミット 2024」^{注1}についてレポートします。g0vのサミットは多様性に富んだ非常にコラボレティブなイベントでした。コミュニティの背景には何があるのか、イベントレポートを通して特徴的だった要素について触れたいと思います。

台湾最大級のシビックテックの祭典g0vサミット

今回のg0vサミットは5月4日、5日に開催されました。世界14カ国からの登壇者、80名以上のボランティア運営スタッフ、2日間で合計600名を超える参加者が会場である台北市の中央研究院 (Academia Sinica) に集まりました。2014年から2年に1回開催されていますが、2022年は開催がなく、今回は4年ぶりの開催でした。筆

者個人としては6年ぶりの参加でした。

今年のサミットのテーマは5つです(日本語は筆者による意訳)。

- “Nerd politics” vs. digital governance
ネット民が与える政治への影響とデジタルガバナンス
- Data, AI, and community collaboration
データ、AI、そしてコミュニティにおけるコラボレーション
- Grassroots, open, polycentric, and communal responses to political and technological authoritarianism
政治的・デジタル権威主義に対する、草の根、オープン、多元的な、コミュニティな応答
- Digital infrastructure grounded in empathy, inclusiveness, and plurality
共感、包括性、多元性に根ざしたデジタルインフラストラクチャー
- Convergence of technology and social issues
テクノロジーと社会課題の行き着く先

4つ目のテーマにある plurality という言葉は、singularity (技術的特異点) の対義語であり、多様性、多元性という意味を持ちます^{注2}。つまり、デジタルにおけるダイバーシティ&インクルージョンも1つのテーマになっています。

注1) <https://summit.g0v.tw/2024/>

注2) 第139回(本誌2023年7月号)、第152回(本誌2024年4月号)も参照のこと。

g0vサミットではもはや当たり前、 だけどやっぱりここがすごい

とくに英語圏ではない地域での海外カンファレンスでは、セッションに参加するにも言語の壁に悩まされます。しかしg0vは、世界各国から参加者が集まることから、すべての人が参加できるようにインクルーシブな工夫が各所に見られます。

たとえば会場では参加者が写真1のシールをバッジやTシャツに貼っているので、気軽にコミュニケーションをとったり、言語のサポートをしてもらったりできます。「日本語を話せませんよ!」とステッカーを貼っていると日本人の参加者同士でも話すきっかけになります。

すべてのセッション会場では、英語と台湾華語の同時通訳がYouTubeでライブ配信されるので、自身のスマートフォンで翻訳された音声を聞くことができました(写真2)。また、日本のアプリである「UDトーク」^{注3}がスポンサー協賛していて、リアルタイムで文字起こしと複数言語への自動翻訳が行われていました。

さらにセッションの議事録は、共同編集がで

注3) <https://udtalk.jp/>

◆写真1 言語サポート用のステッカー



きるドキュメントがHackMD^{注4}というツールで用意されていて、誰でも編集/閲覧が可能でした。セッション中にドキュメントを開いていると、発表内容を複数人が同時に記録してくれていました。

これらのサポートがありながら、参加費無料なのがg0vサミットのすごいポイントです。g0vの活動に賛同するスポンサーのサポートを感じます。

印象的だったセッション

筆者にとって、とくに印象的だったセッション3つを紹介します。

Challenges of Disinformation in the Era of AI

1つ目は、国を越えたDisinformation(偽情報)に対するシビックテックプロジェクトの取り組みを紹介したセッションです。中でも、g0vで作られた「Cofacts」^{注5}にフォークしてタイで活動している、シビックテックファクトチェック組織のCOFACT Thailandの活動が印象的でした。

タイではSMSでのフィッシング詐欺や、SNSではディープフェイクによるDisinformationが出回り、それらの情報を偽物であることを知らずに個人が拡散してしまうことが問題となって

注4) <https://g0v.hackmd.io/@summit2024/notes>

注5) Cofactsは、クラウドソーシングによって、事実の真偽を判断するためのシステムです。オープンソースとして公開されています。
<https://ja.cofacts.tw/>

◆写真2 会場ごとの同時通訳が配信されているYouTube Live





います。COFACT Thailandでは、農家の方にLINEのチャットボットでDisinformationについて学んでもらう取り組みなどを行っているそうです。ほかにも、イベントを開催して踊りと歌による注意喚起も行っていました^{注6}。

テックコミュニティでは高いリテラシーが前提となっていることが当たり前になっていることも少なくありません。そんな中、こうした取り組みを見て、市民を巻き込み浸透を目指すとはこういうことかと、あらためて気づきました。g0vのシビックテックファクトチェック団体であるCofactsと比較すると、COFACT Thailandの活動は専門家や市民の参加によりニュースの真偽を判別するためのクラウドソースのシステムとしての側面よりも、リテラシー教育としての側面のほうが色濃いことがパネルディスカッションの中でも特徴的でした。同じ課題に対して同様のツールを使っていたとしても、ローカルの実情に合わせて求められる手段に違いがあることが印象的でした。

Open Source Culture X Public Issues X Collaboration with Government

2つ目は、g0vから生まれたプロジェクトのプロジェクトリーダーによるパネルディスカッションです(写真3)。中には10年近く続いているプロジェクトや、2代目のリーダーもいました。

注6) <https://youtu.be/4YxsfJRgpYo?si=lbq1pu9HM5gHekG4>

◆写真3 台湾における住宅格差をなくすためのプロジェクト「Rentea」のddioさんが自身のプロジェクトを振り返る



パネルでは「オープンソース」「社会問題」「政府との協力」の3つの観点で、自身のプロジェクトを振り返りました。各プロジェクトの話を知っていると「シビックテックプロジェクト、国は違えどみんな悩みは一緒だよな」と思いつつ、あらためてg0vコミュニティの社会課題の解決への想いの強さを感じました。

課題を解決したいという思いから、プロダクトデモを見せて、政府を巻き込み始めたプロジェクトも、実際にシステムを運用するとなると、実装のための開発者も必要だし、お金もかかります。プロジェクトの資金として政府と契約した金額では、結果的に足りず、リーダー自身のポケットマネーで続けたこともあった、という苦労話もありました。すべての苦労話が今は解消されているハッピーエンドばかりではありませんが、各プロジェクトリーダーはそれぞれ思いを持って活動を続けています。そういった状況をサミットで話すことで協力者を見つける場にもなっているのだと感じました。

FtO Jeju 2023 Student Participation Observation Report

3つ目は、台湾の学生4名が参加したハッカソンイベント「Facing the Ocean Jeju 2023」についてのパネルディスカッションです(写真4)。

Facing the Ocean (以下FtO)は、g0vに加え、韓国のCode for Korea、日本のCode for Japanが共同で運営しているハッカソンイベン

◆写真4 g0vから参加した台湾の学生によるFtO Jeju 2023参加レポート



トです。前回は2023年の6月に韓国・済州島で開催されました^{注7}。

このセッションでは、参加者の台湾の学生4人により次のトピックについての議論がなされました。

- 各国の若者のシビックテックへの参加状況
- g0v、Code for Korea、Code for Japanがそれぞれ提供している支援策
- 若者がシビックテックに積極的に参加するための方法
- ハッカソン終了後も続いているプロジェクトやパートナーシップ

若者がシビックテックに積極的に参加するにはとくに動機付けが重要ということで、「賞金のあるコンテストを実施する必要がある」「さまざまなコミュニティの人と知り合い、コミュニティへの愛を感じることで参加継続が促進される」など、学生ならではの意見が挙がりました。

FtOは2019年6月の沖縄で初めて開催され、同年12月には台南で第2回が開催されました。しかし2020年は新型コロナウイルスの影響で対面イベントがキャンセルされ、2023年は4年ぶりの再開になったという経緯があります。そしてこの2023年のFtOでは学生招待枠が設けられ、初めて学生の渡航費を支援する試みが行われました。この試みにより、日本、台湾、韓国から合計11名の学生が参加し、シビックテックを通じて、国境を越えた学生同士がつながる大きな一歩となりました。

2018年のg0vサミットの時点で、2016年に比べて日本からの参加者(大人)が増えた、という話がありました。2024年のg0vサミットでは、g0vからスピンオフしたFtOへの参加レポートがセッションの1つになるなど、国を越えて学生同士がお互いに刺激を与え合うコラボレーションに

注7) 第143回(本誌2023年11月号)を参照のこと。

までなっていることに、大きな変化を感じました。イベントが終わっても、g0vのSlackを通じて参加者同士が連絡を取り合っている、というのも素敵だなと思います(写真5)。

おわりに：コミュニティは、結局は人の集まり

セッションや、参加者との立ち話でも、いたるところで「コミュニティの魅力は人」という話がありました。個別のつながりは時期によって薄れることがあっても、コミュニティ上では新しいつながりができて、そのつながりは関係性を紡いでいくことでさらに太くなり、いつしか国境をも越え、ここまで活動が続いて来ているのだと気づかされます。

今年のg0vサミットは終わってしまいましたが、FtOは8月17日、18日に横浜での開催が決まっています。g0vサミットでセッションを持っていた登壇者も、当日はプロジェクトを持ち込み参加する予定です。今回のFtOでまた新たなつながりが生まれ、コミュニティが育まれていくのが楽しみです。

本記事を読んでシビックテックやFtOの活動などに興味を持った方は、Code for JapanのSlackよりコミュニティに関わることが出来ます。コミュニティへの参加方法を説明するNotionページ^{注8}をぜひ覗いてみてください。SD

注8) <https://code4japan-community.notion.site/Home-9dd9cd85f07942c1bd5f6ef73efdb122>

◆写真5 Code for Japan、Code for Korea、g0vのFtOに関わるメンバーでの写真

